YAYASAN PLAN INTERNATIONAL INDONESIA

Affiliated with: PLAN INTERNATIONAL

Australian Aid

事例研究

気候変動の影響緩和に向けてユースが担う役割

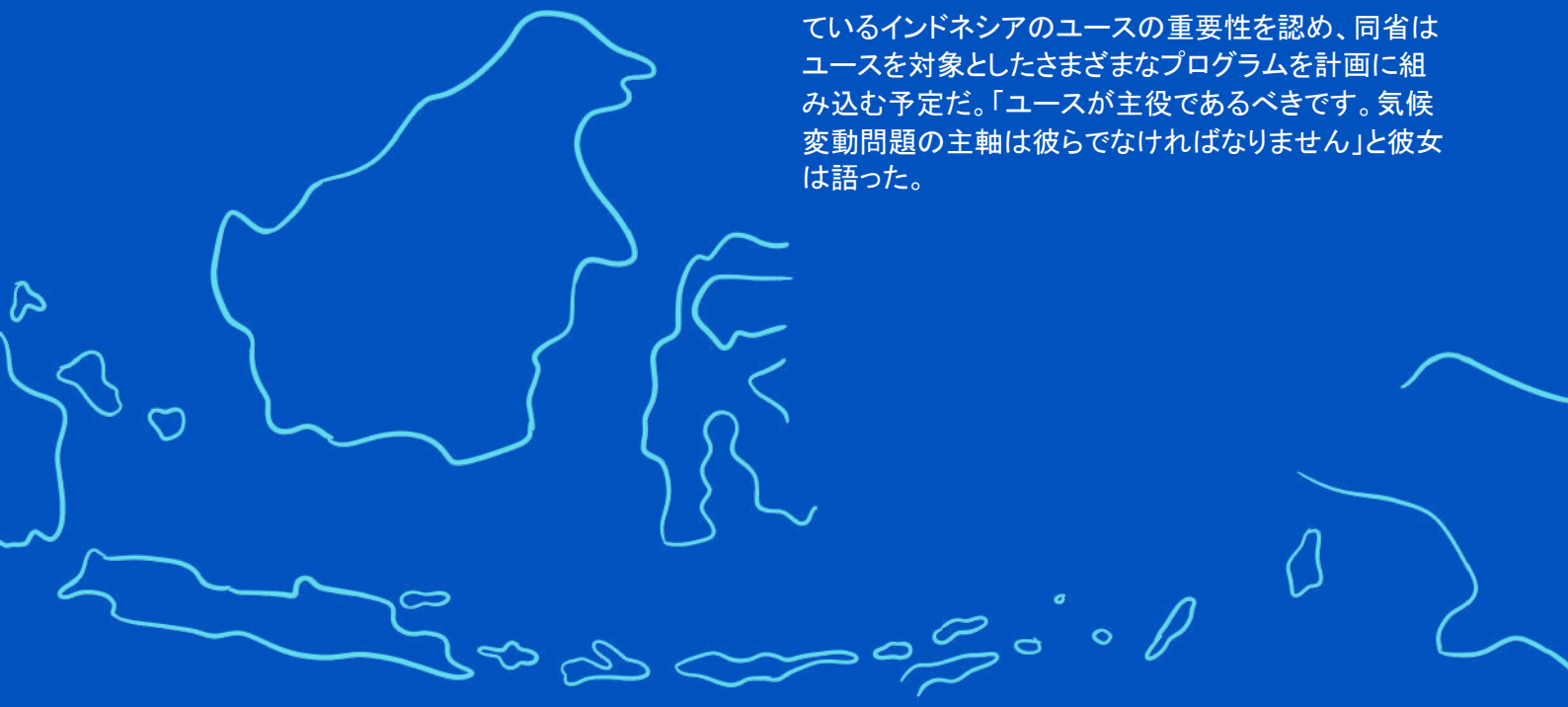
Urban Nexus（国連ESCAP等による持続可能な都市づくりに向けた取り組み）を通じたインドネシアのプラン・インターナショナルの取り組み

I. 客観的状況

インドネシアは、地球規模の気候危機に発展した気候変動問題で重要な役割を果たす戦略的立場にある。

群島国家であるインドネシアは、地理的に地球規模の気候変動の影響を受けやすい位置にあり、また人為による異常気象や環境有害物質がさまざまな災害を引き起こすなかで、その位置づけは強固になっている。他方で、地球規模の気候変動による悲惨な影響を軽減する上で役立つ炭素隔離として機能する広大な森林や湿地帯の生態系、海洋といった自然資本を有している。 未来を担うユースたちは今後、国の気候変動政策、戦略、プログラム、そして国の世界的な約束を決定していくことになる。

環境林業省（MoEF）社会林業総局のJo Kumala Dewi環境パートナーシップ局長も、気候変動に直面しているインドネシアのユースの重要性を認め、同省はユースを対象としたさまざまなプログラムを計画に組み込む予定だ。「ユースが主役であるべきです。気候変動問題の主軸は彼らでなければなりません」と彼女は語った。



写真：Nor Anisaのオフライン交流会

II. Festival for Climate and Humanityプログラムについて

気候危機の影響を克服する上でインドネシアのユースが重要かつ戦略的な立場にあることから、プラン・インターナショナル（インドネシア）はUrban Nexusを通じて、2021年10月～12月に**Youth Festival for Climate and Humanity**プログラム（以後、Youth Festivalプログラム）を開催するに至った。これは、オーストラリアのプランとDFAT-ANCPの支援を受け、コミュニティのユース団体Teens Go Greenを主要協力者として開催された。

気候変動が都市環境に与える影響について理解を深め、持続可能な解決策を共有するために必要なツールと資源を提供するこのイベントは、ユースが変革の担い手となるチャンスである。ユースには、気候変動に対するレジリエンス（強靭性）、災害への備え、子ども・女性・疎外された人びとの権利と保護の実現、ジェンダーに基づく暴力、月経衛生管理、人間性に関連する課題を発信・周知するためにさまざまな地域で教育的活動やデジタルキャンペーンを行うことが期待されている。

気候変動問題やリーダーシップに関する参加者の理解と能力を高め、気候と人類が抱える課題を周知する教育的活動を実施するための資金調達を後押しするため、主催者であるプラン（インドネシア）の支援の下、オンラインでディスカッションが重ねられた。個人および組織の代表として50人の若手リーダーが選出された。

2021年10月～12月の期間、

29州

67地域コミュニティから

209人が

若手気候リーダー

として登録された

FESTIVAL KAUM MUDA untuk IKLIM & KEMANUSIAAN

III. プログラムの主な分野

インドネシアのユースが参加する活動の中心となる**分野は主に3つ**ある。

カウンセリングと啓発

ユースは、気候変動とその社会への影響に関する知識を広めることで、変革の担い手として行動することができる。また彼らが学校やコミュニティに出向いたり、ソーシャルメディアを通じたキャンペーンを実施することで、温室効果ガスの排出削減や環境にやさしく持続可能な生活様式を実践する大切さについて人々の意識が高まる。

技術革新と持続可能な解決策

ユースは、コミュニティが実際に直面している問題に取り組むことで、気候変動が環境に与える影響を軽減する革新的な解決策を生み出すことが期待されている。廃棄物管理、都市緑化、生態系の回復、持続可能な農法など、技術に基づくプロジェクトの設計と実施である。

写真：Gagas Volunteer（左）＆Youth for Climate Action Campaign（右）

変革の先駆者としてのユース

Urban Nexusプログラムに積極的に参加することで、ユースはコミュニティ変革の担い手となる。環境保護グループの結成、技能訓練、環境の持続可能性を下支えする政策提言といった活動を通じてコミュニティを直接巻き込み、変革を促す。

IV. 事例研究

事例研究 1

カラン・ムムスで希望を失ってはならない

写真：Nor Anisa

Anisaは、東カリマンタン州サマリンダ市、スンガイ・カラン・ムムス集落で、女性問題と気候変動に率先して取り組む若きリーダーだ。女性グループ、特に主婦は気候変動の影響を受けやすいため、彼女はこの問題を取り上げている。インスタグラムでのライブストリーミングを通じたオンライン教育や、女性と子どもの保護に注力する市政府や学者らとオダ・ベケサ公園でオフライン交流会を実施している。

Youth Festivalプログラムは、市の環境課と女性の地位向上・児童保護局を通じて、サマリンダ市政府から好意的な反応を得た。市当局は、環境局と民間のPT Paragon Technology and InnovationとWardah Cosmeticsの支援を受け、生態系に有害な物質を酵素の力でろ過する長期プログラムとして活動を継続している。サマリンダ市環境局はさらに、生活廃棄物やその他の汚染物質から川を浄化できるようにカラン・ムムス川流域での廃棄物投棄と焼却に対して150万ルピアの罰金を科す方針を打ち出した。

写真：Nor Anisaのオフライン交流会

事例研究2

バンドンから災害リスク軽減へ

Youth for Climate Action Campaignは、気候変動について同世代をどう教育するかという課題に答えを出すためにBandung Poltekesosが始めたプロジェクトである。プロジェクトの焦点は、気候変動に対するレジリエンスと災害リスク管理に関するユースの意識を高め、行動へと踏み出させることである。

このプロジェクトは、ソーシャルメディアを通じたユース対象の気候変動対策キャンペーン、気候危機に取り組むユースの役割についてデジタルキャンペーンを行う者の能力開発、気候をめぐる活動への挑戦と変化を呼びかけるオンライン・キャンペーンで構成されている。さまざまな観点から気候に対する意識を高めるため、インスタグラム・ライブを通じたFun Talkが行われている。プロジェクトリーダーのErwinは、リーダーシップについて学びつつ、バンドンの4つの学校を含む他のユース組織とのパートナーシップを築くことにも成功し、キャンペーンに熱心に取り組んでいる。Youth Festivalプログラム実施中、彼の活動はソーシャルメディア上の804の投稿で紹介され、57,000人が視聴し、約150人のユースがボランティアとして参加した。

写真：Youth for Climate Action Campaign

写真：Erwin

事例研究3

子どもにやさしい環境づくり

写真：Minawati

Minawatiによると、子どもは大人より知識がないという考え方や、常に年長者の命令に従うように子どもに教える伝統を背景に、災害時に子どもはないがしろにされることが多い。彼女が立ち上げたGagas VolunteersはSARANとともに、早くから子どもたちに社会保障とジェンダー平等に関する教育を行い、気候変動の影響に関連する権利の保護に子どもたちの参加を促して子どもにやさしい環境づくりをすすめようとしている。

Gagas Volunteersは、対面での活動に100人、またオンラインの活動に335人の子どもたちが参加。参加者は、ごみをエコレンガに加工したり、タンブラーをどこへでも持参し買い物袋を持ち歩いたりするなど、多くが自ら積極的に取り組んでいる。「実際の行動が変化すること。それが、このプログラムの最初の成果です」と彼女は言う。彼女にとって、Youth Festivalプログラムは、地元や国の組織とのネットワークを増やし、気候変動に関する知識と情報収集力、そして、促進役・資金調達のサポート役としての能力を高める上で価値あるものだ。

写真：Gagas Volunteers

事例研究4

アートと気候変動を通じたMbang Action

写真：Mbang

MbangことRizalは、気候変動問題と彼が情熱を注ぐアートを結びつけることを考えている。Youth Festivalプログラムを通じて、MbangはTyaga Art and Culture InstituteとJember Doodle Artと協力してバーチャル ドゥードゥルアート（落書き）展示会を成功させた。「地元の文化芸術は、環境保護へのメッセージで溢れています」と彼は言う。彼はユースに、今話題のドゥードゥルアート（落書き）を通して気候変動に関する想いを表現するよう伝え、作品をJember Doodle Artのインスタグラム・アカウントで紹介している。

このドゥードゥルアート（落書き）活動は2,700人超が閲覧し、コメントは300に達した。また、MbangとJember Doodle Artは、インスタグラムで気候変動トークを開催し、視聴した200人の参加者に教育的メッセージを送った。Youth Festivalプログラムを機に、Jember Doodle Artはメンバー50人ボランティア100人を持つ団体に成長し、今も変わらずいたずら描きを通して気候変動問題を伝え続けている。

写真：Jember Doodle Art

事例研究5

TEENS.SEA 海岸から離れない方法

写真：Zulaika

ZulaikhaとPanrita Studioは、Youth Festival プログラムに呼応して、TEENS.SEAプログラム（気候変動問題と沿岸地域を保護する活動）を開始した。この取り組みでは、現在起きている気候変動と沿岸地域、特に漁業コミュニティとユースに及ぶ影響に関する情報を提供しており、インスタグラム、トークショー、ウェビナーを通じて教育コンテンツとストーリーを配信している。

TEENS.SEA Story Challengeでは、インスタグラムのストーリーズを通じて、沿岸地域の気候変動問題について誰もが声を上げることができる。オフラインで開催されたセミナーやトークショーには何十人ものユースが参加し、Zulaikaは思いがけずそのうちの15人を地域レベルで活動する気候変動ユースリーダー候補として採用することができた。彼女らのチームは、廃棄物に関するコミュニティ向け教育、ソーシャルメディアを通じた環境キャンペーン、ウジ虫を利用した廃棄物堆肥化に取り組んでいる。

写真：TEENS.SEA

V. 学び

Youth Festivalプログラム・レポート、参加者・主催者・パートナーらの意見、見解、そして期待から得られた教訓とは。

1. Youth Festivalプログラムは、気候変動に関する情報と知識だけでなく、リーダーシップ、革新的な解決策、コミュニティへの影響力といった点で、若い参加者の能力向上にまぎれもなくプラスの影響を与えている。

2. プログラム終了後の活動がないことで、参加者らが気候変動キャンペーンをやめてしまう恐れがある。

3. プログラム開始時点で基準となるベースライン調査やプログラム参加に対するユースの関心度についての調査が行われなかったために、目標参加者数がかなり低く設定されてしまった。

4. ユースの貢献を国や地方自治体が認め、継続的に支援することが必要である。

5. 社会的影響力のある有名人の参加を増やすことで、ジャーナリストやマスメディアにもっと取り上げられる可能性がある。

VI. 提言

ユース：

1. コミュニケーションの場として同窓会ネットワークをつくってアイディアと経験の共有を図り、新規参加者へのアドバイスと指導を行う。
2. 積極的に提案を行い、持続可能な世界のための活動を公表する。
3. 地元政府や地元NGOとの新たなパートナーシップを構築する。
4. 公式メディアパートナーおよびインフルエンサーとしてマスメディアと提携して広報活動を広く行う。

政府：

1. Youth Festivalプログラムのビジョンと使命を中央政府、州政府、県・市政府の開発プログラム計画に組み込むことで、プログラムの持続可能性を高め、ユースがプログラム計画の策定に積極的に参加できるようにする。

資金提供者：

1. Youth Festivalプログラムの成果が実際に気候変動プログラムにおけるユースの能力向上という形で現れていることから、プログラム継続に向けた支援を行う。
2. 優れた実践と革新的取り組み、そしてこのプログラムが資金提供者の情報媒体として効果的なことを広く一般に示す。

YAYASAN PLAN INTERNATIONAL INDONESIA

Komplek Buncit Utama No. Kav 16, Jl. Warung Jati Barat RT.001/ RW.005.
Jati Padang, Kecamatan Pasar Minggu, Jakarta Selatan
DKI Jakarta 12540, Indonesia.

+62 21 2787 3111 | +62 21 27876435 | www.plan-international.or.id

Yayasan Plan International Indonesia | planindonesia | planindonesia | planindonesia